

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21500707

研究課題名（和文） 大学コミュニティにおける乳児保育の場から生成される重層的カリキュラムの開発

研究課題名（英文） The Development of Multilayered ECEC Curriculum Emerged from the Community-Relationship in a University Campus.

研究代表者 竹内 順子（浜口 順子）(TAKEUCHI JUNKO (HAMAGUCHI JUNKO))

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：80289818

研究成果の概要（和文）：乳幼児0～2歳が過ごす学内保育所（お茶の水女子大学附属「いずみナーサリー（以下、ナーサリー）」）の教育的質の向上と、大学全体のコミュニティとしての教育環境「大学の中で赤ちゃんが笑う」構想を実現するために、下の3つの視点から研究を総合的にすすめた。（1）週1日から週5日の通所日数自由選択や一時保育、また、1日の保育時間もフレキシブルに決められる多元的保育体制において、保育の質を保証するための保育方法、カリキュラム（学び／育ちの履歴）開発（2）環境的教材、芸術的表現教材の開発（3）大学の特性を生かし多世代・他分野との協働を生かしたコミュニティ的实践。平成24年3月に最終報告書「大学の中で赤ちゃんが笑うII」を発行した。

研究成果の概要（英文）：

In order to improve and enhance the quality of care and education in Izumi Day Nursery attached to Ochanomizu University for 0~2 year-old infants, and to realize community-based educational environment, we implemented 3 layered group research work; 1) planning and practicing the ECEC educational program suitable for children who goes to Izumi Day Nursery either every day or only 1 day per week, 2) development of educational and environmental tool and space, 3) collaborative activities through creating diverse educational opportunities with departments or the affiliated kindergarten and schools in the same campus of Ochanomizu University.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：乳児保育、幼児教育

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：大学コミュニティ， 乳幼児保育， 教育環境， カリキュラム開発， 教材開発

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 国立大学法人内に設置された学内保育所お茶の水女子大学いずみナーサリー（以下、ナーサリー）は、経営と保育運営計画実施等すべて大学独自のイニシアチブによるものであるため、その多層的な受け入れ態勢に見合った保育の質保障とそのため研究体制の確保が喫緊の課題であった。

(2) 平成 18 年度（2006 年度）からの 3 カ年で実施した萌芽研究「次世代育成コミュニティとしての大学における乳児施設の意義と可能性の探求」では、ナーサリーにおける保育の独自性や現代的特性、施設としての有効性が、記録研究などを重ねることで多分に詳らかになってきていた。

(3) 平成 18 年度から平成 21 年度、お茶の水女子大学特別教育研究経費による研究プロジェクト「幼・保の発達を見通したプロジェクト研究」（以下、幼保プロジェクト。研究代表者：浜口順子）において、大学と附属幼稚園、ナーサリーの三者が、実習系授業の実施や園内・公開保育研究会などにおける人事協力等、実質的な相互連携研究を行ってきた。

(4) 以上の事柄にかかる研究成果は、日本保育学会をはじめ関連学会において発表され、また『幼児の教育』（研究代表者が編集主幹、フレーバル館）等の一般誌を通じて研究成果が随時発信されてきた。

### 2. 研究の目的

(1) 女子大学というコミュニティを生かした乳幼児保育カリキュラム開発。

①ナーサリーは、保護者である女性研究者や学生の研究・教育の時間に合わせて、週 1 日から週 5 日の通所日数自由選択や一時保育の受け入れを行い、また、1 日の保育時間もフレキシブルに決定できる体制をとる中で、個々の子ども・保護者の多様なニーズに応えつつ、理念として一元的に保育の質を保証するための保育方法を探求する必要がある。

②カリキュラム実現に必須の環境的教材、芸術的表現教材の開発も進める。

③多世代の集うコミュニティとしての大学の特性を生かし、重層的な保育の創造を目指す。

(2) 大学コミュニティで育まれる乳児から大学生そして教員も含めた、それぞれの世代のもつ資質を生かし合いつつ、教育＝共生コンセプトを基軸に、専門教育研究と教職課程が協働する新しい形の大学教育を展望し、ナーサリーがその肝要なひとつの実践ベース、研究ベースとなることを目指す。

### 3. 研究の方法

(1) 大学とナーサリーとの共同研究会を通じて、一人ひとりの子どもの育ちを支えるカリキュラム（学び／育ちの履歴）、仲間と共に流れのある生活を保障するカリキュラム（従来の日案・週案等に代わる活動のシーケンス）の両軸から、子ども主体の保育カリキュラムを試行しつつ構築する。

(2) 保育記録やドキュメンテーションを主題にして大学と共同で丁寧な考察を続け、さらに大型遊具、表現教材等の開発を行う。

(3) 附属幼稚園をはじめ附属学校、食物栄養学系のスタッフ等との協働的プログラムを企画実施する。

### 4. 研究成果

(1) 附属幼稚園との連携を考慮した保育課程を考案し、省察と改案を重ねた。また表現的教材の開発、保育環境の立体化、保護者との連携方法の工夫を進めた。歩行能力をはじめとする運動能力・社会性の発達や人間関係などが、下のクラス（ほし）と上のクラス（にじ）の配属に影響を与えるが、途中入園も多いので、年度途中でも保育プランを立てやすいように、つまり個々の子どもができるだけ居心地よく自分の可能性を発揮できるように、グループ移行がフレキシブルに行われる。このことによって、担任が引き受ける役割と、それを支えるその他の保育者の円滑な連携を促した（この因果関係は逆も可）。

環境整備や子ども理解の方向性に調和が生じ、大人も子どももその個性、違い役割を相互に認め合い発揮することができていた。結果として、大人にも居心地良い環境の美観、多様なアイデアを取り入れた保育プランを具体化させている。たとえば、大型遊具の開発、午睡・食事時間の一斉的にならない時差づくり、ナチュラルな素材や色合いで統一された物的保育環境など、無理なくくつろげる時間空間を提供している。

(2) 大学とナーサリー間の月例合同研究会、おやつ作りをめぐる食環境再考、保護者むけおやつレシピ紹介、工房との協働的な保育家具や遊具の開発、ガラス絵の表現的保育活動などを行い、その成果の一部は、日本保育学会において研究発表された。

(3) キャンパス内の散歩をめぐる学生や職員、生協とのコミュニケーション、他大学の学内保育所との交流、ミニ同窓会の開催。人間生活学科インターンシップの受け入れ、ochas（おやつ作りボランティア）楽器演奏・科学で遊ぼう学生ボランティア、理学部「企画・運営力養成講座」授業（パラシュートで遊ぼう）、附属高校 2 年生「家庭総合」の訪問実習などを受け入れた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- ① 浜口順子 (2012) 乳幼児教育環境の創造プロセスにおける「水平—垂直」のモチーフ—お茶の水女子大学附属いずみナーサリーの保育カリキュラム生成—、お茶の水女子大学人文科学研究 8、171—181. (査読あり)  
[http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51540/1/16\\_171-181.pdf](http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/bitstream/10083/51540/1/16_171-181.pdf)
- ② 中澤智子 (2012) 小さな子の中において“仲良し”を考える、幼児の教育、111—1、フレーベル館、13—16 (査読なし)
- ③ 渡辺晃男 (2011) 保育家具に携わって、幼児の教育、110—4、フレーベル館、56—61 (査読なし)
- ④ 山下紗織 (2010) 肌が触れて感じる温かさ、幼児の教育、109—11、フレーベル館、22—25 (査読なし)
- ⑤ 高坂悦子 (2010) 子どもたちの力を信じて、幼児の教育、109—10、フレーベル館、18—23 (査読なし)
- ⑥ 私市和子 (2010) 日常性から保育カリキュラムを考える (2)、幼児の教育、109—8、フレーベル館、48—51 (査読なし)
- ⑦ 石塚美穂子 (2010) 「うっかりしている時」とチャンスの訪れ、幼児の教育、109—7、フレーベル館、18—23 (査読なし)
- ⑧ 瀧田節子 (2009) 1～2歳児のガラス絵から、体を喜ばせて表す子どもの姿に学ぶ、幼児の教育、108—11、フレーベル館、58—63 (査読なし)
- ⑨ 佐治由美子 (2009) 「ガラス絵」から見えるもの、幼児の教育、108—4、フレーベル館、58—63 (査読なし)

[学会発表] (計3件)

- ① 中澤智子・私市和子 (2011) M男から生まれた表現遊び—3歳未満児の対話的保育の実践報告 (2)、日本保育学会大会発表要旨集 (64) 97 (平成23年5月21日)
- ② 私市和子・中澤智子 (2009) ガラス絵を通して子どもたちが教えてくれたこと—ここの経験や思いをつなぐ、現代保育実践・研究〈交流と対話の会〉(平成21年9月5日)
- ③ 中澤智子・佐治由美子 (2009) 透明なキャンヴァスで描く—3歳未満児の対話的保育の実践報告①、日本保育学会大会発

表要旨集 (63) 209 (平成21年5月16日)

[図書] (計2件)

- ① お茶の水女子大学 ECCELL、お茶の水女子大学いずみナーサリー (2012) 大学の中で、赤ちゃんが笑うII (平成21～23年度文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(C)報告書)全81p)
- ② お茶の水女子大学いずみナーサリー (2011) いずみナーサリー「大型遊具」～歩き始めて 上ってすべて 遊びが生まれる～ (パンフレット)

[その他]

ホームページ等

- ① 特別経費「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」事業 (ECCELL) HP  
<http://www.cf.ocha.ac.jp/nyuyoji/index.html>
- ② 季刊誌『幼児の教育』フレーベル館 HP  
<http://www.froebel-tsubame.jp/shopbrand/047/013/X>
- ③ 季刊誌『幼児の教育』フレーベル館バックナンバー公開 HP  
<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/3705>

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹内 順子 (浜口 順子)

(TAKEUCHI JUNKO (HAMAGUCHI JUNKO))

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授

研究者番号：50416955

(2) 研究分担者

柴坂 寿子 (SHIBASAKA HISAKO)

お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：50221297

佐治 由美子 (SAJI YUMIKO)

お茶の水女子大学・人間発達教育研究センター・講師

研究者番号：10153553

菊地 知子 (KIKUCHI TOMOKO)

お茶の水女子大学・人間発達教育研究センター・講師

研究者番号：30436799

塩崎 美穂 (SHIOZAKI MIHO)

尚絅大学短期大学部・幼児教育学科・准教授

研究者番号：90447574

(3)連携研究者

入江 礼子 (IRIE REIKO)

共立女子大学・家政学部・教授

研究者番号：50288099

小玉 亮子 (KODAMA RYOKO)

お茶の女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・教授

研究者番号：50221958

(4) 研究協力者

お茶の女子大学いずみナーサリー・保育士

私市 和子 (KISAICHI KAZUKO)

中澤 智子 (NAKAZAWA TOMOKO)

石塚 美穂子 (ISHIZUKA MIHOKO)

肥後 雅代 (HIGO MASAYO)

今井 由美子 (IMAI YUMIKO)

片桐 孝子 (KATAGIRI TAKAKO)

高坂 悦子 (KUUSAKA ETSUKO)

浜崎 由紀子 (HAMASAKI YUKIKO)

藤田 まどか (FUJITA MADOKA)

阿部 厚子 (ABE ATSUKO)

江波 諄子 (ENAMI JUNKO)

常磐大学・人間科学部教育学科・非常勤講師

杉本 裕子 (SUGIMOTO YUKO)

鎌倉女子大学短期大学部・幼稚部部长

